日本OR学会賞

2021年度学会賞のうち，業績賞・普及賞・実施賞について，表彰委員会で選考のうえ，理事会にて以下のとおり承認されました．

各賞は2022年3月17日の春季学会賞表彰式（オンライン）にて授与されました．

第23回　業績賞

● 松井知己 氏（東京工業大学）

[選考理由]

松井知己氏は，投票力指数の計算困難性の研究，半正定値計画に基づく最大有向カットの乱択近似とその脱乱択化，MCMC法に基づく乱択近似数え上げ，線形緩和問題の従属丸めに基づく乱択近似解法など組合せ最適化のアルゴリズム設計と解析で多くの研究業績をあげ，またスポーツスケジューリングやフルートの運指最適化などの現実問題への最適化の適用，および秘書問題などの確率過程に関する解析，安定マッチングの戦略的操作可能性などORの数理的側面で幅広く研究を推進してきた．

2001年度に第26回普及賞，2009年度に第29回事例研究賞，2011年度に第1回研究賞を受賞し，これまでに編集理事・副会長を務めている．

以上のように松井知己氏が研究・普及・実施を通じて本学会に大きく貢献している点を評価した．

第47回　普及賞

● 樫尾　博 氏（東京ガス（株））

[選考理由]

樫尾博氏は，東京ガス社内で40年近くにわたってORチームを率い，「緊急保安業務の要員，配車および基地数・配置の最適化」，「電力・ガストレーディングのリスク管理」，「各種マーケティング戦略の構築」など，最適化やリスク分析・シミュレーション・機械学習などさまざまなOR手法を適用し，その有用性を実務の現場で立証してきた．これらの成果を学会機関誌の解説記事として紹介し，ORの有用性の普及にも努めてきた．

また，学会の運営面においては，ORセミナーコーディネーター，庶務理事，会計理事，研究普及理事を歴任し，特に庶務理事時代には，学会の公益社団法人化に尽力し，今日の学会の活動基盤を作り上げた立役者である．

こうした樫尾博氏の実務世界でのORの活用および普及活動への貢献を高く評価した．

● 宮代隆平 氏（東京農工大学）

[選考理由]

宮代隆平氏は，2013年より「整数計画法メモ」というホームページ（https://web.tuat.ac.jp/~miya/ipmemo.html）を公開し，現在も継続して内容の改訂を行っている．当該ページは，整数最適化ソルバーのダウンロード，問題ファイルの記述方法から始まり，各種ソルバーのオプション調整や誤りやすいポイントの紹介など，整数最適化問題をソルバーで扱う際には必見の内容となっている．さらに整数最適化に関する入門資料や参考文献へのリンクも掲載し，研究者向けの高度な内容を含みつつ，初心者がソルバーを使用するためのマニュアルとしても配慮されており，信頼度の高いページである．

上記の内容に加え，宮代隆平氏のOR学会機関誌での特集号の企画など，その他の学会活動を含めた精力的かつ継続的なORの普及活動への貢献を高く評価した．

第46回　実施賞

● 土谷　隆 氏（政策研究大学院大学）

[選考理由]

土谷隆氏は，世界中で新型コロナウイルス感染症が流行し，社会的脅威となるなか，「新型コロナウイルス感染症の流行と解析」という数理モデルに基づいた研究にリアルタイムで取り組んだ．土谷氏が開発した数理モデルはSIRモデルの変種であるが，利用するデータは公知の情報のみであり，導入されているパラメータの意味も明確で，合わせ込みに大きな手間はかからず，簡素なプログラム環境でも結果を導くことができる．このように明確かつシンプルな数理モデルが，刻々と変化する環境下において，常に現実感のある数字を叩き出してきた．オペレーションズ・リサーチが「直面する問題に取り組み，上手く解決するための問題解決学」であることを，世の中に広めた功績は大きい．

以上の土谷隆氏の研究をORの実施として高く評価した．

＊＊

〔2021年度表彰委員〕

田村明久（委員長・慶應義塾大学），三好直人（副委員長・東京工業大学），土谷隆（政策研究大学院大学），塩浦昭義（東京工業大学），枇々木規雄（慶應義塾大学），矢島安敏（テクノスデータサイエンス・エンジニアリング(株)），高橋由泰（(株)日立製作所），鳥海重喜（中央大学），野々部宏司（法政大学）